

平成 18 年度当初予算 重点プログラム別概要

くらし 4 : 交通事故抑止プログラム

(主担当部 : 生活部)

- (1) 交通事故分析等の高度化推進事業
- (2) 高齢者の交通安全活動総合サポート事業
- (3) 交通弱者に対する交通安全教育推進事業
- (4) 安全・安心交通環境整備事業
- (5) 交通安全施設等整備事業

< プログラムの事業費 >

(単位 : 千円)

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	3 か年計
当初計画	600,913	535,000	285,000	1,421,000 程度
見直し後	478,239	386,725 (55,654)	165,159	1,030,123

注 : 「見直し後」の 16 年度は決算額、17 年度は予算現額、18 年度は当初予算額
17 年度 () は、16 年度からの繰越額で予算現額の内数

< 事業目標 >

目標項目		平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
(1) 交通総合情報管理システムによる情報提供の環境整備	目標値			100%
	実績値			
(2) 交通安全活動実施高齢者(交通安全活動指導員)数(累計)	目標値	1,600 人	3,200 人	4,800 人
	実績値	1,450 人	3,296 人	
(3) 重点対象に対する交通安全教育実施地区数	目標値	6 地区	3 地区	3 地区
	実績値	6 地区	3 地区	
(4) 「あんしん歩行エリア」整備率(対策済箇所数/全体箇所数)	目標値	45 %	73 %	100 %
	実績値	45 %	73 %	
(5) 「交通事故危険箇所」整備率(対策済箇所数/全体箇所数)	目標値	59 %	82 %	100 %
	実績値	53 %	82 %	

注 : 17 年度実績値は 1 月末現在で把握できる見込み値

< 進捗状況 (現状と課題) >

- ・地域住民や市町村と一体となって、高齢者や子どもなどの交通弱者に重点を置いた啓発や交通安全活動及び安全な交通環境づくりのためのハード整備を進めています。
- ・県内における平成 16 年の交通事故死者数は前年に比べ 13 人増加し 187 人となったものの、平成 17 年は、高齢者の死者数を抑止できたことにより、交通事故死者数は 163 人と改善されました。

- ・依然として多くの尊い命が交通事故で失われており、特に、死者数に占める高齢者の割合が依然として高いことから、今後も高齢者の交通事故防止に重点を置いた交通安全活動を展開していくことが必要です。

<平成18年度の実施方針>

- ・死者数に占める比率が高い高齢者を事故から守るため、引き続き、地域において主体的に交通安全活動を行う高齢者の人材育成、活動体制づくりを推進し、地域の特性に応じた多様な交通安全活動への支援を実施していくなど、高齢者等の交通弱者に重点を置いた交通安全教育や啓発に取り組みます。また、「あんしん歩行エリア」の確保や「交通事故危険箇所」の解消など、交通安全施設の重点的な整備を推進します。
- ・交通事故の人的、地域的な要因等の高度な分析を行うシステムの運用を開始し、各種の交通安全対策への活用や県民への情報提供を推進します。

<主な事業>

交通事故分析等の高度化推進事業【18年度当初予算額 19,196千円】

「交通情報総合管理システム」の運用を開始し、県内で発生する交通事故の人的、地域的な要因などについて詳細かつ高度な分析を行い、県民に情報提供するとともに、各種の交通安全対策に活用していきます。

高齢者の交通安全活動総合サポート事業【18年度当初予算額 20,302千円】

高齢者が交通安全を自らの問題としてとらえ、積極的に交通安全活動に取り組んでいけるよう、市町や関係機関等と連携して、高齢者の人材育成と活動基盤づくりを推進するとともに、各地域での交通安全活動に対して支援を行います。

安全・安心交通環境整備事業【18年度当初予算額 52,836千円】

「あんしん歩行エリア」(3地区)において、LED式歩行者用信号灯器等の交通安全施設を集中的に整備して通行者等の安全を確保するとともに、「交通事故危険箇所」(21箇所)において、自発光式道路鋸等の交通安全施設を集中的に整備し、交通事故危険箇所の解消を図ります。

交通安全施設等整備事業【18年度当初予算額 45,000千円】

県管理道路の「交通事故危険箇所」(6箇所)において、交差点のカラー舗装や照明灯の設置等の交通安全施設を整備します。